織田信長（1534〜1582）

尾張中西部を支配した尾張織田家の嫡男として生まれながら、奇抜な行動を繰り返した信長は、周囲の者から「うつけ者（愚か者）」と呼ばれていました。

そのため、信長の家督相続後、主君としての器量を疑問視した実弟と家臣団が謀反を起こします。しかし、これを破ると、さらに勢いに乗って尾張をすべて平定。そこに駿河の今川氏が数万の軍勢を率いて攻めてきましたが、信長は5千の軍をもって、これを桶狭間の戦いで破りました。

その後は戦いを繰り返しながら、徐々に勢力を拡大、室町幕府を滅亡に追い込み、最終的に近畿から北陸甲信越に及ぶ領土を支配。全国統一も間近となりましたが、その半ば、明智光秀が起こした本能寺の変により自害しました。

徳川家康（1543〜1616）

300年続く江戸幕府を開いた徳川家康は、我慢に我慢を重ねた武将として知られています。

三河の国人・松平氏の嫡男と生まれましたが、幼少期は、織田氏そして今川氏の人質となり、そこで元服します。桶狭間の戦いで、今川氏が敗れると、人質を脱し、信長と手を結んで、三河を取り戻します。

その後も領土拡大に努め、信長に次ぐ天下人としての地位を確立していきますが、信長の死後は、政治面で一歩抜きん出る秀吉の臣下となりました。

秀吉のもとでは、ナンバー2の地位を確保し、秀吉の死後は政治的な支配力を高めたうえで、最終的に関ヶ原の戦いに勝利、さらに大坂城を陥落させ、天下を統一しました。